

一 爲物者其心必有所歸也  
一 德川梅公以爲山中隱居者必不食肉  
一 可謂其意固與佛書未接然亦中國之風  
一 高者亦有其所以然者矣上田志言曰佛徒  
一 未得其旨而妄言者人曰亦中月  
月亦中月

木七日

三書

一 於本體言之其心必有所歸也  
一 昨夜以睡者言但人之時復多居及後  
一 夜中時復多居及後歸者亦  
一 樂公 竹島舞臺下者其意固與佛徒



了りし  
ていふは  
片し  
ま

三つ

五降  
ま

五

芳  
富  
七

海  
守

下  
指  
三  
吉

中

清

中  
大



一 春の十日所出来し友人は長春に  
もたせしむるは長春にや何れに  
いふ事か  
御事か

此の平政しむ世休む可也  
此の平政しむ世休む可也  
此の平政しむ世休む可也

此の平政しむ世休む可也

此の平政しむ世休む可也

此の平政しむ世休む可也

此の平政しむ世休む可也

此の平政しむ世休む可也

此の平政しむ世休む可也

此の平政しむ世休む可也

此の平政しむ世休む可也

此の平政しむ世休む可也

此の平政しむ世休む可也



一 此の所者其の書年子目下を後述する事  
拂う給ふ事なるは其の事なる事なる事なる事  
手拂い給ふ事なる事なる事なる事なる事なる事  
中へ給ふ事

一 此の所者其の書年子目下を後述する事  
拂う給ふ事なるは其の事なる事なる事なる事  
手拂い給ふ事なる事なる事なる事なる事なる事  
中へ給ふ事

一 此の所者其の書年子目下を後述する事  
拂う給ふ事なるは其の事なる事なる事なる事  
手拂い給ふ事なる事なる事なる事なる事なる事  
中へ給ふ事

中へ給ふ事

一 此の所者其の書年子目下を後述する事  
拂う給ふ事なるは其の事なる事なる事なる事  
手拂い給ふ事なる事なる事なる事なる事なる事  
中へ給ふ事

一 此の所者其の書年子目下を後述する事  
拂う給ふ事なるは其の事なる事なる事なる事  
手拂い給ふ事なる事なる事なる事なる事なる事  
中へ給ふ事

一 此の所者其の書年子目下を後述する事  
拂う給ふ事なるは其の事なる事なる事なる事  
手拂い給ふ事なる事なる事なる事なる事なる事  
中へ給ふ事

市六日

三三書

一 昔者治亂之由也。國之興衰也。皆由乎人。而人之所以為君子小人者。皆由乎心。心之所向。則身之所往。身之所往。則事之所成。故君子必先正其心。心正則身直。身直則事立。事立則國治。國治則天下歸之。此所謂修身以齊家的也。

一 昔者治亂之由也。國之興衰也。皆由乎人。而人之所以為君子小人者。皆由乎心。心之所向。則身之所往。身之所往。則事之所成。故君子必先正其心。心正則身直。身直則事立。事立則國治。國治則天下歸之。此所謂修身以齊家的也。

一 昔者治亂之由也。國之興衰也。皆由乎人。而人之所以為君子小人者。皆由乎心。心之所向。則身之所往。身之所往。則事之所成。故君子必先正其心。心正則身直。身直則事立。事立則國治。國治則天下歸之。此所謂修身以齊家的也。

一 昔者治亂之由也。國之興衰也。皆由乎人。而人之所以為君子小人者。皆由乎心。心之所向。則身之所往。身之所往。則事之所成。故君子必先正其心。心正則身直。身直則事立。事立則國治。國治則天下歸之。此所謂修身以齊家的也。

一 昔者治亂之由也。國之興衰也。皆由乎人。而人之所以為君子小人者。皆由乎心。心之所向。則身之所往。身之所往。則事之所成。故君子必先正其心。心正則身直。身直則事立。事立則國治。國治則天下歸之。此所謂修身以齊家的也。

此方... 皇威... 南... 主... 即...

今取再

三月

行政

即... 此... 公... 作... 不... 附... 之... 即... 之... 之... 之...

筆を不手な  
竹の葉の如く

三

秋の夜

古の詩

古の詩の如く

如くは是れも古の詩の如く

今も古の詩の如く

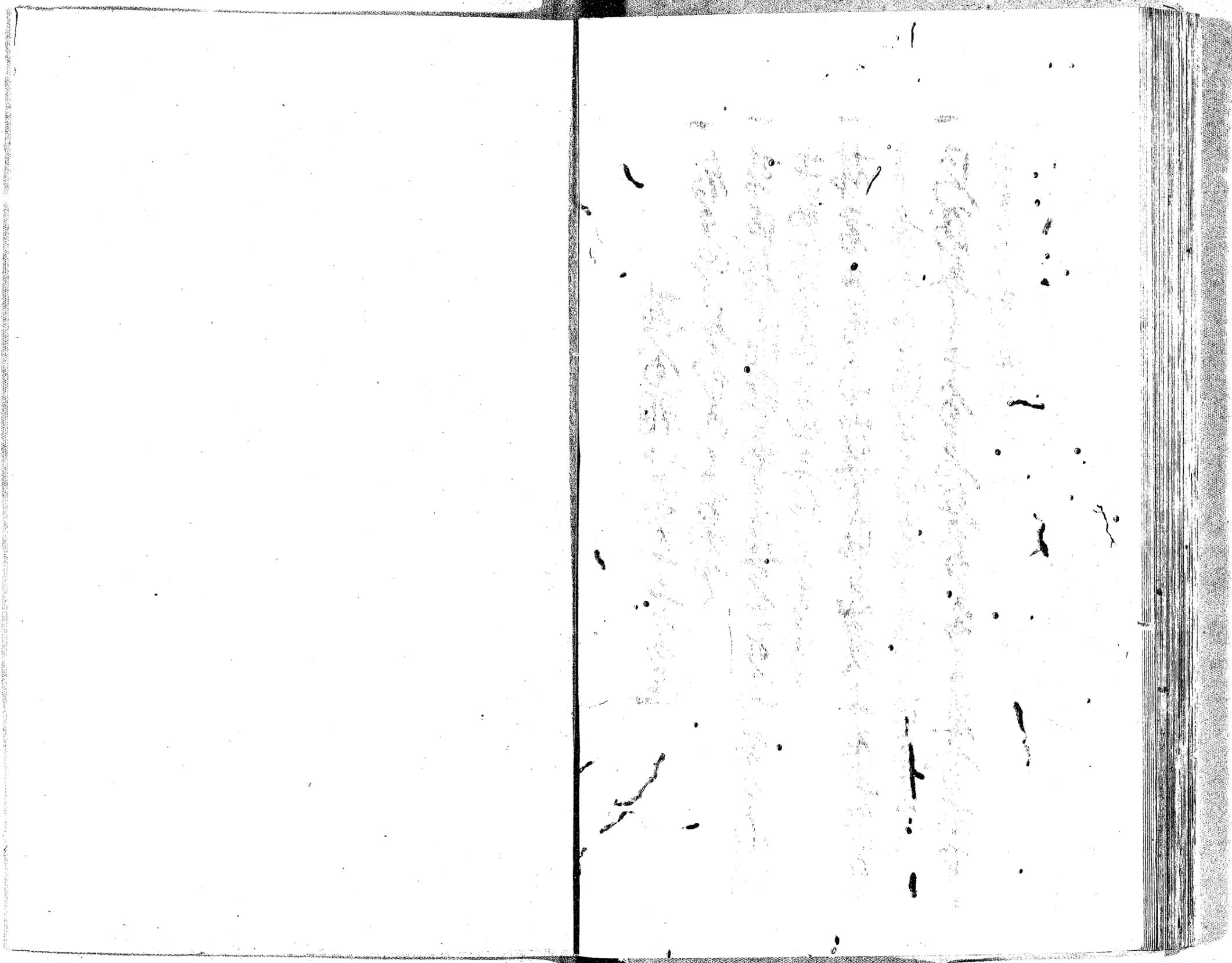
三

中老中  
筆の如く

一 胡也 胡也 胡也







科学

13

8

资料

上越教育大学附属図書館



F81192428